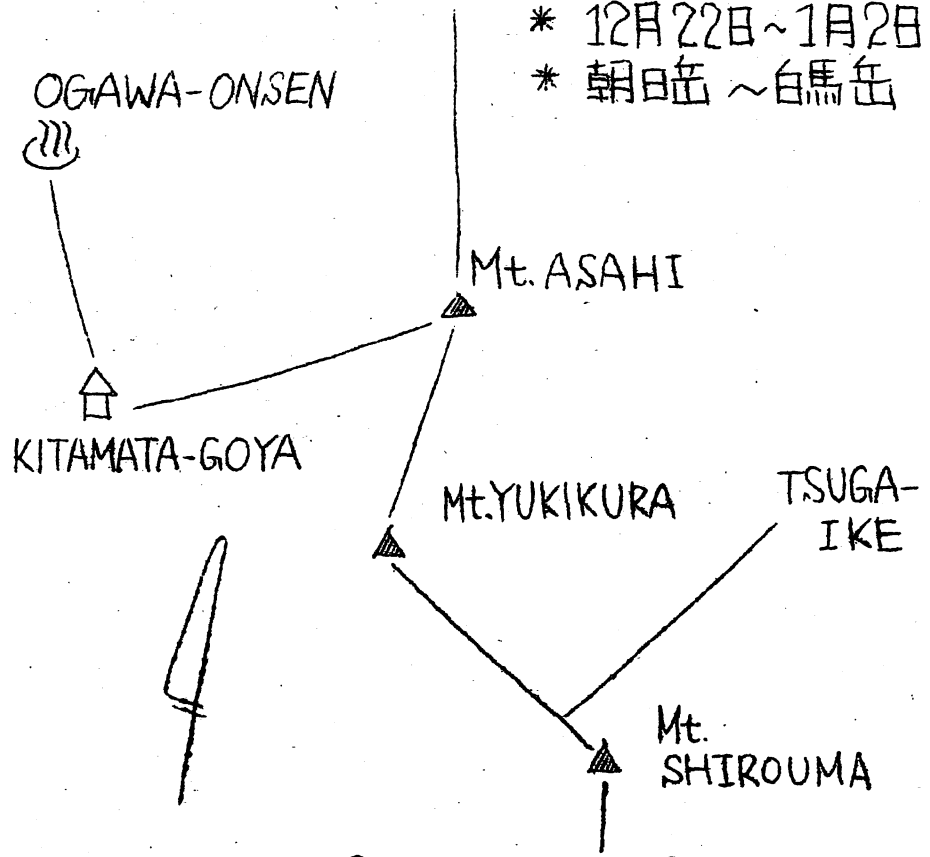


1975

昭和50年度

登山宿報告書

* 12月22日~1月2日
* 朝岳~白馬岳



信州大学山岳会伊那松本山岳部

冬山合宿を終えて——

大きな天気の崩れもなく、又無事に下山できた事を喜ぶたい。反面、2年続きで好天に恵まれた2年目の人たちには 冬山を甘くみることのほかに ようにしてもらっていた。合宿で 特にかかげられた—自介たちでラ、セルカ出来、縦走形式による生活技術の向上、と言う目的は 今年非常に雪が少なかったにも関わらず 成果が得られたと思う。又、事前の問題に悩んでいた—北又までの林道の雪崩、北又の吊橋、主稜線上を全員で行動する事—は 雪の少ないせいもあり又、10-15を2分する事で 特に支障はなかった。他に気付いた事 2つ3つ

まず、11月12月と忙しかったせいもあり、又山行が目新しいものではない等の理由によつてか、各係の取組みが不十分だった事は明らかだが それを 二の報告書にのせてもらっていた。次に、基本的技術の面での成果はあつたにしろ、2年目以上のアイゼン、ギールワークの不足は明らかであり、これからの山行で身に付けたいところである。又、3年目以上に於ける情報判断の弱干の甘さが長にわたつた(自介も含め)。北又の林道雪倉の登り、赤男山付近の fix. etc に於けるものは決定的な方向性ではないが、もっとスムーズに行けた所である。2年目にき、と動いてもらっていた(行動面以外で) 等々である。他に

入山11日目の1月1日に 白馬岳のPeakから眺めた北又の山々は各人にその山を山行が、その感慨を与えてくれていると思う。次回は、次回の山行の 予定

C.L 吉田秀樹.

期間 S50 12/22 ~ S51 1/2 (実働10日・沈殿2日)

参加 C.L.吉田秀樹(農4IV) S.L.福島涉(農4IV)
 表橋須貝与元明(農3IV) 師田信人(農2IV) 片山博秀(農1I)
 Essen 古橋孝夫(農3IV) 村田卓純(農2IV) 下田章(農1I)
 気象記録 二俣真司(農1IV) 船野典明(農1I)
 会計・渉外 左山幹雄(農3IV)

以上参加 4年部員×2 3年×2 2年×2 1年×1 計11人
 の川原 医療 (係名・氏名(学部・学年・部員)順)

行動表

	松本	西小川温泉	台北又小臣	御 古ナ平	山 イブソ山	山 お花畑	山 朝日平	山 朝日岳	山 赤男山	山 コル	山 雪倉山	山 鉢コル	山 三國境	山 白馬岳	山 かがみ	松本
12/22	→															
23		→														
24			←													
25				→												
26					←											
27						→										
28							→									
29												→				
30												*4				
31												*4				
1/1													→			
2																→

実働10日・沈殿2日(計画:実働8日予備7日)

行動記録 一皿と汗と涙の記録

12月22日 ○ → ● → ⊗

松本(6:00) ~~→~~ 泊(11:27) ~~→~~ 小川温泉(14:00)
— 小屋(14:30)

小川温泉についた時は、雪がそうとう降っていた。幸運にも、近くの工事現場の小屋を借りることに。暖い夜をすごすことができた。

「入山祝い」ということで、酒を少々飲む。

12月23日 ●_小 → ○ → ⊗, ①

小屋(6:40) — 越道峠(13:26) — 北又小屋(16:25)

朝、起さると、空には灰色の雪が、いっぱい振かって雨を降らしていたか、出発するころには、やんでいた。

快適な小屋に、段箱を5つ残して、出発。ガケを登り、林道に出て、1ピッチほどいった所で、ワカン、ピッケルもつける。積雪は50cmくらいかな。林道が、川を離れるあたりで、川原をいかにコースをとる。ちよと行ったら、先に行けなくなり、急な斜面を苦勞して、林道入。積雪50cm~1m。ひさまでのラッセルで、荷も重く、しんどい。峠に付いたころからカスカ出て、雪が降り出す。北又小屋までは、更に長かった。小屋かいていたので使うことにする。ラッキー!

12月24日 ○ → ⊗ → ① → ○

ニパーティーに分かれて行動。

ア. ティポ隊 L. 福島、須貝、村田、左山、ニ俣下田
小屋(6:50) — アナ平(14:30) — 北又小屋(17:00)

わか、アイロンで出発。橋げたのない、ワイヤーだけの橋を死ぬ思いで渡る。1日時間がかかった。小雪。ラッセルはエライのに、ちよとも高度がかせげない。

12:10、めしを食う。1100m地点。天気とてもよい。矢川の勇気が見える。気持イけと、ラッセル、シンドイ!

TOPは空身でラッセル。バテバテになってアナ平につま、ティポする。よく、もったと思う。小屋へ着きこる。

イ. ティポ隊回4又隊 L. 菅田、古橋、師田、細野、片山
小屋(6:27) — 越道峠 — 小川温泉(13:30) — 峠(17:30) — 北又小屋(19:10)

個装だけをキスリングのタッシュに付けて、おりたたんて出発。昨夜からの雪で、昨日のラッセルのあとは

すっかり消えてしまっていた。ひさかた、ももぐらまでの
ラッセル。荷が軽いのに、しんどい、しんどい。
峠をこえて、昨日、林道に出た所より、もう少し行った
所から、余半面を、下る。小川凹では、テホを回4又し、
吉田さんが「ヘッドランプ、すぐ出るように！」と言う。
帰り道は、峠までのニセツツカが、ハテバテになった(片山)
峠に付いたころは、もうあたりは、まっ暗。ヘッドランプ
をつけて、再び小屋へ向う。細野もエラそうだった。
小屋に付いた時は、うれしかった。テホ隊は、ほくろ
の帰りが、おそいで、心配していたらしい。

12月25日 ◎ → ⊗

ア. 先発隊、L. 福島、須貝、左山、村田、二俣、下甲
小屋(6:40) — ブナ平のテホ地(9:15) —
イフリ山(15:00)

途中から風が強くなる。昨日のトレースがあるので、
バンバン行く。ブナ平のテホを少し持って、行く。
1400m位の所では、風が強く、ツェルトをかぶって休む。

イ. 後発隊 L. 吉田、古橋、師田、細野、片山
小屋(7:10) — ブナ平のテホ地(11:15) —
イフリ山(15:00)
やっぱり橋を渡るのに、1時間もかかった。トレースに
よって、バンバン行く。ブナ平のテホも少しだけ
持って、行く。風強し。行けども、行けども、イフリ山は、
見えなし。ラッセルのあとも、たいてい消えている。
14:00ころ、先発隊に追いつき、いっしょにイフリ山へ。

12月26日 ◎、小雪もちらつく。

ア. テホ隊、L. 吉田、古橋、二俣、師田
イフリ山の天場(7:00) — お花畑 — 2098m山峰手前
のゴルフ状の所にテホ(10:15) — 帰天(11:30)
最初から、月曇くさいのラッセルが連続する。風は、
時として吹き出す。顔あたりまでの急な斜面を越すと
麓後は、すーと、大雪原が続く。
お花畑を越えたあたりで、視界不良のため、吉田、古橋
で偵察に行く。天地の境がわからないのだ。
9:50 再出発、前朝日岳が目前にそびえている。
テホして、帰路につく。風強く、トレース消えていた。
テントに着くと、すでにテホ回4又隊は、戻っていた。
今日はこれで、行軍を終了。

イ、テボ回牧隊 L、福島、須貝、左山、村田、下田、片山
 イワリの天場 (7:00) — フナ平のテボ地 (8:35) 糸田野
 — イワリ山の天場 (11:00)

昨日のトレースは、ほとんど消えていたが、荷はないし、急な下りなので、フナ平までは楽だった。微風とわずかな雪が舞い落ちてきた。テボとしてあった段箱は、6つしかなく、アインツヴァイで一番勝った左山さんは、空身同然で、TOPを行く。途中で、イタチがテンミたいた重カ物が、白い野ウサギを追いかけているのを見た。

12月27日 ⊗

ア 先発隊 L 福島 古橋 師田 村田
 イワリ山 (6:10) — テボ地 (9:00) —
 朝日小屋 (10:45)

朝快晴 朝日岳もハッキリ見える 今日はずんざん行けそうだが、17時途中から雪が軟しく降ってくる テボ地を過ぎると2時後発隊が追いつく。

イ 後発隊 L 吉田 須貝 左山 二俣 下田 糸田 片山
 イワリ山 (7:00) — テボ地 (9:45) — 朝日小屋 (10:45) — 朝日小屋 (11:00) — テボ地 42 — 朝日小屋 (12:00)

先発隊に追いついた所から 須貝、左山、片山、下田 2、昨日のテボをまどりにいく。朝日小屋に着いた9時、昼食を食へ、同じく2、テボを取り戻した地卓地帯に残り2時荷物を取りにいく。11:20に荷物残置場を到着し再び朝日小屋に向かう。もう設備完了した天びんびを12した。

12月28日 ⊙ → ○ → ①

ア 先発隊 L 福島 須貝 二俣 左山
 朝日小屋 (7:00) — 朝日岳 (9:20) —
 赤男山と雪倉岳の谷 (14:15)

上月に雪がおり多少がすく2113、赤男山の登り2fix、結局fixは使われなかった。

イ 後発隊 L 吉田 古橋 村田 師田 片山 糸田 下田
 朝日小屋 (8:10) — 朝日岳 Peak (10:15) —
 赤男山の途中 (11:55) — 赤男山と雪くら谷
 2113

朝日岳の山頂は天気よく視界がよかつた。雪海が
まじりつゝ山頂付近の積雪は雪が付着し氷の
奇怪な形をして居る。雪は表面がクラストにして
稜線によると固が強く流が少。

12月29日 ①

ア L吉田、古橋、師田、村田

赤湯山のゴレ (6:45) — 雪倉岳 (10:20) —

雪倉岳避難小屋 (11:20)

T.Sより雪倉岳正面の黒い岩壁の左側にル-
トを試みるが、fixガイルが不足し工作を断念。この
2時間余りのロス。

更に左側の雪面にル-トをとりワカンアイゼンで登る
この頃より強風出はじり、月塵と靄が付きなう。
ヒナン小屋はアボに付着して居る雪は少く、P.Dと
除雪(後発隊まで)。

イ 後発隊 L福島、須貝、二保、古山、片山、下田、和田、
S.T. (8:45) — 雪倉岳 (11:00) — ヒナン小屋
(11:45)

高所に雪、風が強い。雪倉の岩壁の上部区は雪煙
を上げている。撤収の後一時間余り先発隊の様子
を見る。ワカンアイゼンにて登る。雪面はクラストして
いるがあまりよくない。急斜面を登り終えて稜線に
出ると風は非常に強く、雪面は完全に氷化している。
アイゼンのみにて歩行飛はじり、強い風と雪煙とを
付きとるほみに激しくあたる。雪煙を目撃あけられ
た。やがて日本帽をつける。先発隊と合流のち付
に入る。

12月30日 ②

西風強く氷殿

12月31日 ①

西風があまり強く氷殿

1月1日 ① → ○

小屋(11:10) — 三國境(8:50) — 白馬
岳山頂(9:35) — 三國境(10:10) —
— 天狗原(12:00) — 神の田圃(13:15)
風がふい風に強く 金本峠はトラバースす
る。三國境でサブリックで白馬岳アタック。初
め2人と出会う。頂上で10分ぐらいい休む。
のち再び三國境、天狗原でワカンを脱ぐ。
この皿裏スキーにほろほろ出会う。早大
小屋近くにて設営

1月2日 ①

S.T. — 柵池スキー場 — 白馬駅 — 松本。
スキー場の中を飛越で滑り、キレイな雪の
スキー場の中をひたすら下る。ちと道路に
本バスに乗り、白馬駅より松本 部屋
にて解散。ゴクローサン
天気はこの後から悪くなる。下山の途中
で白馬の稜線付近はガスと雪煙が上
っていた。

各係

▽ ESSEN・梱包

一心計画に準じて梱包していたわけであるが、結果的に#は大きな失敗は見うけられなかったと思う。今回特別な点を述べさせてもらうと、今までの定説であった「ロミカニ」の内容を変化させ、費用において安くあげることができたことである。即ち、ロミカニの真として、ジャガイモ・ニンジン・タマネギ等のみを大きく省略して、スイートコーン・モヤシと内容を少なくしてみたが、引段大きな問題はなかった。この点などは春山に大きく生かしてほしいものである。また行動食にアルハイパンを使用した。これも問題となる所は少なく、十分に使用できることは明かである。

長期の山行においてEssenの管理というものは、実に考えさせられた。行動などが複雑で、あるいは計画どろりにいかなくなると、一段と必要性を感じる。我部では、また「そのたぐい」というものが、複雑なEssen・梱包計画、特に極地法のレーションシステムなるものは経験が少ない。その意味において、積雪期の登山においてのEssen計画は、いろいろな点から大きく考えて行く必要性を感じる。

▽ 医療

事故もなく、問題はなかったが、松本の保健管理センターの意向では、人数や入山日数に応じて(山岳部の都合にあわせて)医療を支給するわけにはいかないとのことなので、今後どうするかと、考えなければならぬ。

▽ 会計・渉外

特になし。

収支報告は下のとおり。

収入	143,010 (13,000×11+10)
支出	
Essen	69894
交通費	45,478
返金	27,500 (2,500×11)
残高	900 (都心へ)
計	138
計	143,010

監査
会計
未
証
認
無
責任

あってるのかな????

▽ 気象係

結局何もなかった。」としかいいようがない。「何もないうままに終るのではないか。」という不安は最初からあった。だ

が、「なにかしなければ」という気持は多分あった。が、それも、そう思っただけで終わった。

だから、反省というものもない。それ總どころではない。

▽ 記録係

(今、作っています かりりん)

まだ何もしていない。報告書は作るが、その記録の収集方法と、その内容が問題である。つまり、行動中ほど全員(記録係も含めて)が記録をとっていないのではないだろうか。ただ、~~昨日~~「今日の記録を書け」といわれて、しぶしぶコースタイムぐらゐを手帳に書いている者が多いのではないだろうか。まず「記録をなぜとるのか。なぜ報告書を作るのか」を考えたい。いまこそ、こんなことを考えなければならぬということ自体が、相当におかしいのだと思うが。記録係がもっと真剣にやらなければならぬのはもちろんである。